





## 外資輸入に就て

日本興業銀行總裁 添田壽一君

〔日四月六日七卅治明可認物便郵種三第〕  
〔日十三月六年二十四治明〕  
〔日四月六日七卅治明可認物便郵種三第〕  
〔日十三月六年二十四治明〕

世間動もすれば外資萬能を唱ふるものあり、近來又之れが反動として往々一切不可説を耳にすれども、余を以て之を見れば元來外資の可否如何は斯く絶對的問題にあらずして、其時其所々に内外の事情を綜合し事々物々に就きて決定すべき相對の問題たるを信す。何となれば事業用資本の要是は唯國際間金利の差等如何にあるべし。今日列國は唯國際間金利の差等如何にあるべし。今日列國は經濟上の進歩著しく從て資本も漸時充實するの大勢より之をいへば、引續き流入の傾向あるものと見て妨なるべし。然れども内地に於ても金利低落の今日なれば、強て外資に依頼せざるも用は辨すべく、成る可く資本の供給を内國にて辦じ得る様の程度に達するを主眼とせざるべからず、彼の徒らに空名に迷はされ條件に拘はらず必要もなきに外資に依頼するは策の得たるものに非ざるべし。

尚ほ金融の狀況並にその將來を推測すれば、目下内外金融の大勢は多少活動の機運を示せりと雖ども、未だ旭日東天の域に達せず、僅かに四隣の鷄

聲を聞くのみにて資金使用的途なきに苦めるもの如し、従つて以外の事變なき以上は金利も意外の急變なかるべきか。併し相窮すれば必ず通ずる

は活世界の一大原則なれば、決して悲觀するを要せず。金利低落すれば資金の需用は自然に發生す

ることは是れ通則なり。殊に經濟上の事柄は人爲的

急變を忌み自然の趨勢に要する可なりとす。冬

去れば春來り夏過ぎて秋となる四時の轉換は經濟

上にも免れ難きものと云ふべとなり。

内外金融の大勢は多少活動の機運を示せりと雖ども、未だ旭日東天の域に達せず、僅かに四隣の鷄

聲を聞くのみにて資金使用的途なきに苦めるもの如し、従つて以外の事變なき以上は金利も意外

の急變なかるべきか。併し相窮すれば必ず通ずる

は活世界の一大原則なれば、決して悲觀するを要

せず。金利低落すれば資金の需用は自然に發生す

ることは是れ通則なり。殊に經濟上の事柄は人爲的

急變を忌み自然の趨勢に要する可なりとす。冬

去れば春來り夏過ぎて秋となる四時の轉換は經濟

上にも免れ難きものと云ふべとなり。

内外金融の大勢は多少活動の機運を示せりと雖ども、未だ旭日東天の域に達せず、僅かに四隣の鷄

聲を聞くのみにて資金使用的途なきに苦めるもの如し、従つて以外の事變なき以上は金利も意外

の急變なかるべきか。併し相窮すれば必ず通ずる

は活世界の一大原則なれば、決して悲觀するを要

せず。金利低落すれば資金の需用は自然に發生す

ることは是れ通則なり。殊に經濟上の事柄は人爲的

急變を忌み自然の趨勢に要する可なりとす。冬

去れば春來り夏過ぎて秋となる四時の轉換は經濟

上にも免れ難きものと云ふべとなり。

内外金融の大勢は多少活動の機運を示せりと雖ども、未だ旭日東天の域に達せず、僅かに四隣の鷄

聲を聞くのみにて資金使用的途なきに苦めるもの如し、従つて以外の事變なき以上は金利も意外

の急變なかるべきか。併し相窮すれば必ず通ずる

は活世界の一大原則なれば、決して悲觀するを要

せず。金利低落すれば資金の需用は自然に發生す

ることは是れ通則なり。殊に經濟上の事柄は人爲的

急變を忌み自然の趨勢に要する可なりとす。冬

去れば春來り夏過ぎて秋となる四時の轉換は經濟

上にも免れ難きものと云ふべとなり。

内外金融の大勢は多少活動の機運を示せりと雖ども、未だ旭日東天の域に達せず、僅かに四隣の鷄

聲を聞くのみにて資金使用的途なきに苦めるもの如し、従つて以外の事變なき以上は金利も意外

の急變なかるべきか。併し相窮すれば必ず通ずる

は活世界の一大原則なれば、決して悲觀するを要

せず。金利低落すれば資金の需用は自然に發生す

ることは是れ通則なり。殊に經濟上の事柄は人爲的

急變を忌み自然の趨勢に要する可なりとす。冬

去れば春來り夏過ぎて秋となる四時の轉換は經濟

上にも免れ難きものと云ふべとなり。

内外金融の大勢は多少活動の機運を示せりと雖ども、未だ旭日東天の域に達せず、僅かに四隣の鷄

聲を聞くのみにて資金使用的途なきに苦めるもの如し、従つて以外の事變なき以上は金利も意外

の急變なかるべきか。併し相窮すれば必ず通ずる

は活世界の一大原則なれば、決して悲觀するを要

せず。金利低落すれば資金の需用は自然に發生す

ることは是れ通則なり。殊に經濟上の事柄は人爲的

急變を忌み自然の趨勢に要する可なりとす。冬

去れば春來り夏過ぎて秋となる四時の轉換は經濟

上にも免れ難きものと云ふべとなり。

内外金融の大勢は多少活動の機運を示せりと雖ども、未だ旭日東天の域に達せず、僅かに四隣の鷄

聲を聞くのみにて資金使用的途なきに苦めるもの如し、従つて以外の事變なき以上は金利も意外

の急變なかるべきか。併し相窮すれば必ず通ずる

は活世界の一大原則なれば、決して悲觀するを要

せず。金利低落すれば資金の需用は自然に發生す

ることは是れ通則なり。殊に經濟上の事柄は人爲的

急變を忌み自然の趨勢に要する可なりとす。冬

去れば春來り夏過ぎて秋となる四時の轉換は經濟

上にも免れ難きものと云ふべとなり。

内外金融の大勢は多少活動の機運を示せりと雖ども、未だ旭日東天の域に達せず、僅かに四隣の鷄

聲を聞くのみにて資金使用的途なきに苦めるもの如し、従つて以外の事變なき以上は金利も意外

の急變なかるべきか。併し相窮すれば必ず通ずる

は活世界の一大原則なれば、決して悲觀するを要

せず。金利低落すれば資金の需用は自然に發生す

ることは是れ通則なり。殊に經濟上の事柄は人爲的

急變を忌み自然の趨勢に要する可なりとす。冬

去れば春來り夏過ぎて秋となる四時の轉換は經濟

上にも免れ難きものと云ふべとなり。

内外金融の大勢は多少活動の機運を示せりと雖ども、未だ旭日東天の域に達せず、僅かに四隣の鷄

聲を聞くのみにて資金使用的途なきに苦めるもの如し、従つて以外の事變なき以上は金利も意外

の急變なかるべきか。併し相窮すれば必ず通ずる

は活世界の一大原則なれば、決して悲觀するを要

せず。金利低落すれば資金の需用は自然に發生す

ることは是れ通則なり。殊に經濟上の事柄は人爲的

急變を忌み自然の趨勢に要する可なりとす。冬

去れば春來り夏過ぎて秋となる四時の轉換は經濟

上にも免れ難きものと云ふべとなり。

内外金融の大勢は多少活動の機運を示せりと雖ども、未だ旭日東天の域に達せず、僅かに四隣の鷄

聲を聞くのみにて資金使用的途なきに苦めるもの如し、従つて以外の事變なき以上は金利も意外

の急變なかるべきか。併し相窮すれば必ず通ずる

は活世界の一大原則なれば、決して悲觀するを要

せず。金利低落すれば資金の需用は自然に發生す

ることは是れ通則なり。殊に經濟上の事柄は人爲的

急變を忌み自然の趨勢に要する可なりとす。冬

去れば春來り夏過ぎて秋となる四時の轉換は經濟

上にも免れ難きものと云ふべとなり。

内外金融の大勢は多少活動の機運を示せりと雖ども、未だ旭日東天の域に達せず、僅かに四隣の鷄

聲を聞くのみにて資金使用的途なきに苦めるもの如し、従つて以外の事變なき以上は金利も意外

の急變なかるべきか。併し相窮すれば必ず通ずる

は活世界の一大原則なれば、決して悲觀するを要

せず。金利低落すれば資金の需用は自然に發生す

ることは是れ通則なり。殊に經濟上の事柄は人爲的

急變を忌み自然の趨勢に要する可なりとす。冬

去れば春來り夏過ぎて秋となる四時の轉換は經濟

上にも免れ難きものと云ふべとなり。

内外金融の大勢は多少活動の機運を示せりと雖ども、未だ旭日東天の域に達せず、僅かに四隣の鷄

聲を聞くのみにて資金使用的途なきに苦めるもの如し、従つて以外の事變なき以上は金利も意外

の急變なかるべきか。併し相窮すれば必ず通ずる

は活世界の一大原則なれば、決して悲觀するを要

せず。金利低落すれば資金の需用は自然に發生す

ることは是れ通則なり。殊に經濟上の事柄は人爲的

急變を忌み自然の趨勢に要する可なりとす。冬

去れば春來り夏過ぎて秋となる四時の轉換は經濟

上にも免れ難きものと云ふべとなり。

内外金融の大勢は多少活動の機運を示せりと雖ども、未だ旭日東天の域に達せず、僅かに四隣の鷄

聲を聞くのみにて資金使用的途なきに苦めるもの如し、従つて以外の事變なき以上は金利も意外

の急變なかるべきか。併し相窮すれば必ず通ずる

は活世界の一大原則なれば、決して悲觀するを要

せず。金利低落すれば資金の需用は自然に發生す

ることは是れ通則なり。殊に經濟上の事柄は人爲的

急變を忌み自然の趨勢に要する可なりとす。冬

去れば春來り夏過ぎて秋となる四時の轉換は經濟

上にも免れ難きものと云ふべとなり。

内外金融の大勢は多少活動の機運を示せりと雖ども、未だ旭日東天の域に達せず、僅かに四隣の鷄

聲を聞くのみにて資金使用的途なきに苦めるもの如し、従つて以外の事變なき以上は金利も意外

の急變なかるべきか。併し相窮すれば必ず通ずる

は活世界の一大原則なれば、決して悲觀するを要

せず。金利低落すれば資金の需用は自然に發生す

ることは是れ通則なり。殊に經濟上の事柄は人爲的

急變を忌み自然の趨勢に要する可なりとす。冬

去れば春來り夏過ぎて秋となる四時の轉換は經濟

上にも免れ難きものと云ふべとなり。

内外金融の大勢は多少活動の機運を示せりと雖ども、未だ旭日東天の域に達せず、僅かに四隣の鷄

聲を聞くのみにて資金使用的途なきに苦めるもの如し、従つて以外の事變なき以上は金利も意外

の急變なかるべきか。併し相窮すれば必ず通ずる

は活世界の一大原則なれば、決して悲觀するを要

せず。金利低落すれば資金の需用は自然に發生す

ることは是れ通則なり。殊に經濟上の事柄は人爲的

急變



日

## 靴革製造に兔皮の利用

濠洲「ギーランド」にある聯邦「タンナリー」會社は兎の皮より靴革を製造する新工業開始に付申請せしに濠洲政府は之れを多大の趣味あり且つ國益となるべきものとして重要視せり是迄兎皮は商品とし見做されざりしか現時婦女に小兒及男子の軽き靴製造用材料として「メルボン」「ビクトリア」等に於て單寧に侵されたる兎皮の多數は販賣せらるる之れに依りて製したる靴の外觀は恰も滑かなる山羊革の如く而かも其重量はカンカロー製革より聊か軽くして耐久の利益あり。

會社は靴工業を營む傍「兎ベスト」を撲滅豫防する一大公益を爲すべし。

毛皮を除去する用ゐる膠は毛を損傷し賣品とならざるを以て帽子製造工業に供し得る毛を造る爲め其に用ゐる機械を歐洲より輸入中なりといふ。

## 各府縣使用電力

電氣事業の日に進み今や各府縣中これが設備を有せざるものなく發電力の巨大なるは水力に於て東京電燈火力に於て東京鐵道の二會社なるが全國電力統計は二十九萬五千百四十二基と算し尙は最近兩三年間に宇治川電氣の三萬基東京電燈の水力第二新に於ても同しく三萬基を得らるべく千基以上之の電力を有する地方を掲載すれば左の如く之に依りて各地方電氣使用の多寡を推知するに足るべし。



東京	大阪	福島	神奈川	秋田	新潟
七千四百基	一千五百基	一千五百基	一千五百基	六百基	五百基
七、三七	一、二三	一、一七	一、一五	一、一五	一、一五
北海道	兵庫	岡川	鴻		

農商務省に於て調査せられたる所に依れば日本内地に於て尙ほ開墾の見込ある地積は總數三十四万二千九百五十三町歩餘にして内水田となるもの六万三千七百十四町歩餘畠となるもの二十七万九千二百三十八町歩餘の由なり而して右未開墾地積の最も多數を占めたるは鹿兒島縣として三万三千二百二十五町歩餘を有し之に次けるは茨城縣二万九千八百四十九町歩餘岩手縣二万五千二百七十四町歩餘靜岡縣二万九百九十町歩餘青森縣二万百十二町歩餘福島縣一万九千九百九町歩餘等其重なるものなりといふ。

## 露國の東方移民

露國は西比利亞及極東に對する民政策に關しては常に全力を傾注し諸製造所は勿論工場會社等に使用せる最下級労働者に至る迄出來得る限り露國なりといふ。

## 各國一人の貿易額

此程能勢總領事の調査したる世界各國に於ける毎一人當り外國貿易額は左の如し但計數は各國とも一千九百七十年度に據る、

國別	人口一人三對	國別	人口一人二對
日本	十九萬圓	和蘭陀	六百七十圓
米國	三百六十圓	瑞西	三百十圓
歐洲	二百七十圓	英國	二百九十四圓
獨逸	一百二十圓	加奈陀	一百八十四圓
露西亞	十圓八十一錢	清國	二圓四十錢

右の統計に依れば韓國の人口は最近十年間に於て殆んど二倍に増加したるか其富力の現在は二、五、〇〇〇、〇〇〇圓なりといふ。

## 韓國の戸口と富力

統監府に於て最近調査したる韓國の戸數人口に統計は左の如し、

光武一年	全五年	全十年
一、三三、四六戶	一、四六、三四戶	一、五九、三三戶
五、九八、五二人	九、九一、五三人	九、九三、五七人

而して近時に至り米國に於て亦豆粕の需要喚起せられ既に之れを見本として過般神戸港より百四十噸を輸出せりと、されば其結果次季に於ては大豆の外更に豆粕の新版路開かれ滿洲貿易は一層の活躍を見るべきかといふ。

## 未開墾地三十四

## 萬町步

## 步

## 三十四

人を使役し勞銀の低廉なるに拘はらず支那人を排斥し居りたるか本年に於ける移民は例年に比し尙一層の増加を期待し烏拉爾山脈を越へ来る數は約八十万以上に達すべく露國は本年度より特に是等の移民の爲めに特別移民列車を組立つる計畫中なりといふ。

愛媛	長崎	福島	佐賀	長崎	鹿兒島	宮崎	熊本	大分	島根
三、三五	六、〇五	二、五五	二、〇六	一、〇九	一、〇四	一、〇三	一、〇三	一、〇三	一、〇三
三、三五	一、一〇								

## 滿州豆輸出好望

滿洲大豆の歐洲向輸出は本季當初以來頗る盛況を呈し最近迄に其額累計十三萬五十九噸を算せりと

而して近時に至り米國に於て亦豆粕の需要喚起せられ既に之れを見本として過般神戸港より百四十噸を輸出せりと、されば其結果次季に於ては大豆の外更に豆粕の新版路開かれ滿洲貿易は一層の活躍を見るべきかといふ。

## 組合彙報

### 朽木縣肥料商聯合

明治四十二年六月十八日午後二時宇都宮市旭日館ニ於テ開會ス出席組合員及議事概要左ノ如シ  
館野孝十郎、山崎清四郎、手塚朔太郎（以上河内郡）小西徳三郎、岡本喜代吉、高橋平三郎、安西治三郎（以上上都賀郡）平澤淺次郎、柳田留吉、毛塚惣八、中島重平、櫻井源右工門、大島元平、寺内文彌、坂本半吾、柿沼龍藏、小川善平（以下上都賀郡）稻見肥料合資會社、福田豊吉、飯田敏四郎、矢津喜一郎、高根澤肥料株式會社、鈴木良一、大村仁平、河合長藏、福田恒吉、丸山彦吉、手塚景吉、荒川藤吉、村上濱吉、篠原伊之吉、水室久三郎、福田音吉、金子八百吉、菊池貞太郎、伊澤清三郎、委員会員長開會ヲ宣シ村山副組合長前年度ノ事務報告ヲ爲シ次テ村上會計委員缺席セラレシヲ以テ代テ左ノ通會計報告ヲ爲シ承認ヲ求メタリ  
收人金二百八拾六圓九拾二錢二厘  
内譯金百五拾參圓 四十一年度中收入經費

右組合長開會ヲ宣シ村山副組合長前年度ノ事務報告ヲ爲シ次テ村上會計委員缺席セラレシヲ以テ代テ左ノ通會計報告ヲ爲シ承認ヲ求メタリ  
ノ講話アリ閉會シタリ時ニ午後六時。  
右ニテ全部議事ヲ了シ字縣屬及菅谷半田兩技手ノ幹部員ハ從來肥料商間ニ行ハレ  
價ノ廢止スルノ適當ナルヲ認ム

次ニ議長ヨリ肥料業者ノ智識開發策トシテ講習會又ハ講話會ヲ縣下各地ニ開催シテハ如何ト諮ラレシ處本問題ハ充分ニ講究ヲ要スル点アリトシテハ實費ヲ以テ御需ニ應シ可申候條御希望ノ

## 宇都宮穀商同業組合創立總會

明治四十二年七月五日宇都宮市旭町一丁目旭日館ニ於テ開會七字、鈴木遠藤ノ三縣屬臨席、大塚仲次、増淵安藏、菊池啓三郎、綱川仲次郎、石濱啓三郎、荒川惣平、青柳卯三郎、安藤啓次郎、吉田元次郎、塙田子之吉、石今末吉、池田幸吉（以上出席）上野鹿藏、丸田政吉、村山喜代吉、菊池爲吉、小島常八郎、塙田合名會社、大島元藏、石田サク、福田音吉（以上委任狀）ノ四十七名出席定款ヲ議了シ明治四十三年度ノ經費三百五十七圓ヲ決定シ次テ役員ノ選舉ヲ執行セシ處左ノ通り當選シ茲ニ本組合ノ成立ヲ見ルニ至れり

長野作二郎 青木芳三郎 畠田縫次  
竹澤由五郎 福田音吉 荒川惣平  
青木仁平 青柳卯三郎 池田國三郎  
神戸德太郎 池田幸吉 丸田政吉  
因ニ同組合ニ於テハ不日役員會ヲ開キ組長、副組長、會計委員ノ選舉ヲ行ヒ定款、經費豫算、役員ノ認可ヲ其筋ニ申請スル筈ナリ。

『七』 號五拾七第 報月所議會業商宮都字 日十三月六年二十四治明 {日四十月六年七月治明} {可認物便郵種三第}

美濃紙(四百目)本草一束	美濃產
西ノ内(七百目付一束)	野州產
舶來印刷紙(一斤)	上中質物
半紙一束(一貫付)	三桿改良
新間用紙(四十二斤)	並質物
蒲團綿(一貫目)一本	舶來ザラ四六判富士製
中綿(一貫目)一本	ザラ哭判千壽製
紩績綿糸(同)百斤	ザラ哭判千壽製
洋產綿糸(同)百斤	ザラ哭判千壽製
生糸(大貫目)百斤	廿枚乃至廿枚入
宮改良縞	中
同蒲團縞	下
宮染両面唐草	野州產
豊島紺	一反
白木綿	一反
真岡晒	一反
花色絹	一反
甲斐絹	一反
白足袋	市内產
爪三枚紋	市内產
紺足袋紋	市内產
爪三枚紋	市内產
杉二間押四寸角一本	野州產
杉三間押三寸五分角一本同	野州產

卷之二

卷之三

〔日四十月六 年七卅治明〕 號五拾七第 報月所議會業商宮都宇 日十三月六年二十四治明 〔六〕

一、五百  
二、五百  
三、五百  
四、五百  
五、五百  
六、五百  
七、五百  
八、五百  
九、五百  
十、五百  
十一、五百  
十二、五百  
十三、五百  
十四、五百  
十五、五百  
十六、五百  
十七、五百  
十八、五百  
十九、五百  
二十、五百  
二十一、五百  
二十二、五百  
二十三、五百  
二十四、五百  
二十五、五百  
二十六、五百  
二十七、五百  
二十八、五百  
二十九、五百  
三十、五百  
三十一、五百  
三十二、五百  
三十三、五百  
三十四、五百  
三十五、五百  
三十六、五百  
三十七、五百  
三十八、五百  
三十九、五百  
四十、五百  
四十一、五百  
四十二、五百  
四十三、五百  
四十四、五百  
四十五、五百  
四十六、五百  
四十七、五百  
四十八、五百  
四十九、五百  
五十、五百  
五十一、五百  
五十二、五百  
五十三、五百  
五十四、五百  
五十五、五百  
五十六、五百  
五十七、五百  
五十八、五百  
五十九、五百  
六十、五百  
六十一、五百  
六十二、五百  
六十三、五百  
六十四、五百  
六十五、五百  
六十六、五百  
六十七、五百  
六十八、五百  
六十九、五百  
七十、五百  
七十一、五百  
七十二、五百  
七十三、五百  
七十四、五百  
七十五、五百  
七十六、五百  
七十七、五百  
七十八、五百  
七十九、五百  
八十、五百  
八十一、五百  
八十二、五百  
八十三、五百  
八十四、五百  
八十五、五百  
八十六、五百  
八十七、五百  
八十八、五百  
八十九、五百  
九十、五百  
一百、五百  
一百一、五百  
一百二、五百  
一百三、五百  
一百四、五百  
一百五、五百  
一百六、五百  
一百七、五百  
一百八、五百  
一百九、五百  
一百十、五百  
一百一十一、五百  
一百一十二、五百  
一百一十三、五百  
一百一十四、五百  
一百一十五、五百  
一百一十六、五百  
一百一十七、五百  
一百一十八、五百  
一百一十九、五百  
一百二十、五百  
一百一二十、五百  
一百一三十、五百  
一百一四十、五百  
一百一五十、五百  
一百一六十、五百  
一百一七十、五百  
一百一八十、五百  
一百一九十、五百  
一百一一百、五百  
一百一一百一、五百  
一百一一百二、五百  
一百一一百三、五百  
一百一一百四、五百  
一百一一百五、五百  
一百一一百六、五百  
一百一一百七、五百  
一百一一百八、五百  
一百一一百九、五百  
一百一一百十、五百  
一百一一百一十一、五百  
一百一一百一十二、五百  
一百一一百一十三、五百  
一百一一百一十四、五百  
一百一一百一十五、五百  
一百一一百一十六、五百  
一百一一百一十七、五百  
一百一一百一十八、五百  
一百一一百一十九、五百  
一百一一百二十、五百  
一百一一百一二十、五百  
一百一一百一三十、五百  
一百一一百一四十、五百  
一百一一百一五十、五百  
一百一一百一六十、五百  
一百一一百一七十、五百  
一百一一百一八十、五百  
一百一一百一九十、五百  
一百一一百一一百、五百



物品の正良と代價の低廉  
と迅速應求等は弊店の特  
色なり

古泉徳次郎  
電話五百三十一番

製材部擴張

全製材部

全精米製粉部

在來水力を應用し製材成し來りたる處今般  
涼繩を應用し在來より倍するの製材仕候  
間何卒舊に倍し御用命之賜願上候

▲肥料、麻苧、  
藍、眞絹

福田恒吉

電話三〇六番

宇都宮市停車場脇

商號久喜屋

宇都宮市本郷町廿八番地

關澤商店館列

活版印刷所

宇都宮市川向町本店

委託販賣、貨物貸附金

貨物、保管、荷爲取組



下野倉庫株式會社

芳賀郡眞岡町

宇都宮市一條町(警察前角)

電話一四八番

共社

三

(電話三六五番)

支店



▲宇都宮市の中央、荒山神社の坂下ゆへ  
土產物御求まは至極御便利であり升  
▲獨立の勸工場にて市中無類第一の廉  
價正札附に致してあり升  
▲流行品は他店に魁くるは申す迄もな  
く花客様にて御承  
知の筈てあり升  
▲品が善く  
て直が安  
く有ご有  
ゆる品は  
取ります

特約 大販賣種 目

東京人造肥料株式會社製品  
大阪硫曹株式會社製品  
日本人造肥料製造所製品  
攝津製油株式會社製品

大阪硫曹株式會社製品  
東京人造肥料株式會社製品  
日本人造肥料製造所製品  
菜種油粕及魚印過燐酸完全肥料  
鹿印牛印各種完全配合肥料

●大阪硫曹株式會社製品  
●關東酸曹株式會社製品  
●見本ハ御一報次第二早速御送可申上候

●各種取揃へ有之候ニ付御用命奉願上候  
●見本ハ御一報次第二早速御送可申上候

手塚豊吉

宇都宮市上河原町

電話二三一番

花浪清吉

宇都宮市宝路町四番地

電話三二一

諸建築用材供給請負  
諸木材戸障子廉價販賣  
諸建築工事請負業

博大會覽評共  
受狀褒於會進  
小麵風味ノ美ナルハ  
杉領弊社ノ特長ナリ  
造製元田市堺市宮合會名  
小杉製麵四番電話



登録商標

明保野 銘酒

明保野 釀造元 新部幸吉  
町瀬築市宮都宇

博大日常ノ食料ト進  
物用ニハ便利ニ  
テ最も廉價ナリ

高會評

主食料ト進  
物用ニハ便利ニ  
テ最も廉價ナリ

菊の友は原料を精撰し學理を應用し最も斬新なる釀造

諸建築木材供給受負  
諸木材廉價販賣  
戸障子受負業  
諸建築工事受負業

業務擴張ノ爲メ從來ノ建具類賣場狹隘ヲ感シ肴町通ニ移轉仕候條  
陸續御用命奉願候

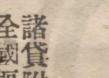
宇都宮市日野町  
本店  
平安岐嶋條  
電話 一三八番

和紙  
洋紙  
卸商  
上油屋紙店  
相場直三郎  
電話 (四〇番)

和紙ハ土佐、駿河、石見、美作等ノ產紙ハ悉ク全地直輸人ニ付中介地タル東京若クハ大坂ノ手ヲカラ  
ス故ニ兩都ノ相場ニ相應メ可申候。洋紙モ舶來紙ヲ始メ内地各製造會社ノ標定ニ係ルモノ一切取揃有  
之候ニ付和洋共出精販賣可仕候間御用命奉願上候

年  
日歩  
一分  
錢四  
厘五  
精々高  
步二  
御預  
利可申  
候

株式寶積寺銀行宇都宮支店  
會社寶積寺銀行宇都宮支店



通別當定期  
知段座期  
預預預  
金金金

年  
日  
步  
一分  
錢  
錢四  
厘五  
精々高  
步二  
御預  
利可申  
候

宇都宮市大工町五番地  
湖の諸君奮て御試  
用あらん事を乞ふ  
方法にして芳香佳  
味且つ廉價なり江  
千秋多色壽

諸貸附當座貸越手形割引荷爲替送金代金取立諸會社配當金代理拂等精々勉強取扱致候  
全國樞要各地ニ爲替取組アリ送金總テ無手數料

電話 三五番 電略(ホウ)